

第7回 FISIM 検討委員会 議事概要

1. 日時 平成17年10月26日(水) 10:00~12:00
2. 場所 中央合同庁舎第4号館 共用第2特別会議室(4階404号室)
3. 出席者

(FISIM 検討委員会委員)

井原委員長、佐々木委員、高木委員、林委員、藤井委員

(常時出席者)

大森(日本銀行調査統計局統計企画担当)

(経済社会総合研究所)

黒田経済社会総合研究所長、大守経済社会総合研究所次長、土肥原総括政策研究官、法専総括政策研究官、大脇総務部長、飛田国民経済計算部長、大貫企画調査課長、甘利国民生産課長、百瀬分配所得課長、二上国民資産課長、広川地域・特定勘定課長

4. 議事

- (1) FISIM推計結果(参考試算値として公表)について
- (2) 今後の検討について
- (3) その他

5. 配布資料

- | | |
|-----|----------------------|
| 資料1 | 第7回委員会でのFISIM検討のポイント |
| 資料2 | FISIM参考試算値(表章案) |
| 資料3 | FISIM推計に関する参考資料 |
| 資料4 | 今後のFISIM検討のスケジュール(案) |
| 資料5 | 第6回FISIM検討委員会議事録 |

○議事概要

1. 公表の形式および試算期間について

<事務局からの説明>

- ・ **FISIM** の参考試算値について、公表は年報に掲載したいことを説明。
(金融の自由化のタイミングや **EU** が基本的に 1995 年以降としていることを考慮し、今回の参考試算値の対象期間は 1995 年以降とする。)
- ・ **FISIM** を導入した場合の、生産額(**GDP**)への影響について説明。

<委員からの意見>

- ・ 事務局からの試算及び公表形式について、概ね了承。
- ・ 公表にあたっては、**FISIM** は理解が難しい概念なので、もう少し分かり易い解説を添えるべき。
- ・ **FISIM** の導入により **GDP** がどう変わるか、また **FISIM** を導入することによって何が捉えられるのかを分かり易く説明する必要がある。
- ・ 新たな概念の **FISIM** については広報と周知が非常に大切になる。
例えば、金融業の産出額が従来の概念である帰属利子から **FISIM** 方式に変わることにより金額が大きく変わることを分かりやすく説明すべき。
- ・ 金融仲介機関に格付けられるノンバンクは、調達側の相手がほぼ預金機関である(直接に預金者からの調達ではない)という点がわかりにくい。
- ・ **FISIM** の輸出入デフレーターが大きく動く理由について。
(事務局より、**FISIM** のデフレーターを構成する利ざやデフレーターが大きく動く場合があることを説明。)

(以 上)